

平成28年熊本地震ヒアリング調査 — 3.11教訓に着目して

東北大学災害科学国際研究所
今村文彦, 丸谷浩明, 寅屋敷哲也

ヒアリング・概要調査チーム

- 地震発生から10日目(本震から1週間), 第2フェーズへの移行?
- 23日土 仙台ー福岡
- 24日日 福岡 熊本へ移動 熊本市内 熊本 ヒアリング 福岡ー仙台
- メンバー; 今村文彦(所長), 丸谷浩明(防災社会システム研究分野教授), 寅屋敷哲也(同助教)
- 対象; 県庁・国(政府対策本部), ボランティア, 熊本大など
- 現地視察(熊本市内, 益城町など)
- テーマ; 現在の課題・問題, 将来の復旧・復興, それぞれの役割と連携, 3.11などの教訓は活かされているのか?



訪問先など

- (1) 7-9時 **益城町被災地**
 - 益城町災害ボランティアセンター, TEC-Force 国交省木曾川上流河川事務所 杉山 防災情報第一係長
- (2) 9:30-10:30 **災害ボランティアの活動拠点** (県庁内)
 - 栗田氏, 明城氏 (JVOAD), 伊藤氏 (レスキューストックヤード)
 - 【テーマ】ボランティア活動(専門と一般), 支援物資物流の支援、避難所運営・現状, 今後
 - 【資料】支援団体火の国会議参加団体名簿
- (3) 10:30-11:30 **政府現地対策本部**
 - 緒方審議官, 児玉企画官(内閣府防災)
 - 【テーマ】直後の対応, 人命救助, 初動対応, 支援物資物流, ボランティア活動
 - 【資料】首相視察対応資料
- (4) 11:30-11:45 **熊本県庁知事室**
 - 蒲島知事, 田嶋知事公室長, 本田危機管理監(知事公室)
 - 【テーマ】地震活動と二次被害防止, ボランティア活動, みんなの防災手帳
- (5) 11:50-12:30 **熊本県庁土木部**
 - 原政策審議監, 鈴木総括審議員・河川港湾局長, 村上河川課長, 菰田河川開発室長
 - 【テーマ】沿岸・河川施設点検, 常時閉門対応, 雨期での土砂対応(深刻), 建設業配慮
 - 【資料】二次被害防止対応メモ
- (6) 13:10-14:20 **熊本大学まちなか工房**
 - 担当: 藤見俊夫先生
 - 熊本大学大学院 自然科学研究科 社会環境マネジメント講座 准教授
 - 【テーマ】当時の経験と対応, 現在までの状況, 今後の連携(学際分野, 災害医療, 学生ボランティア, BCP 調査, 歴史史料保全),
 - 事前情報
 - 初動体制の課題(留学生なども含む)
 - 学内(外)連携の状況

TEC-Force 国交省木曾川上流河川事務所
杉山 防災情報第一係長



レスキューストックヤード 伊藤 理事



内閣府 緒方 大臣官房審議官



内閣府 児玉 企画官

JVOAD
栗田 代表

JVOAD 明城 事務局長

(1) 7-9時 益城町被災地

(2) 9:30-10:30 災害ボランティアの活動拠点 (県庁内)

(3) 10:30-11:30 政府現地対策本部

本田 危機管理監

田嶋 知事公室長

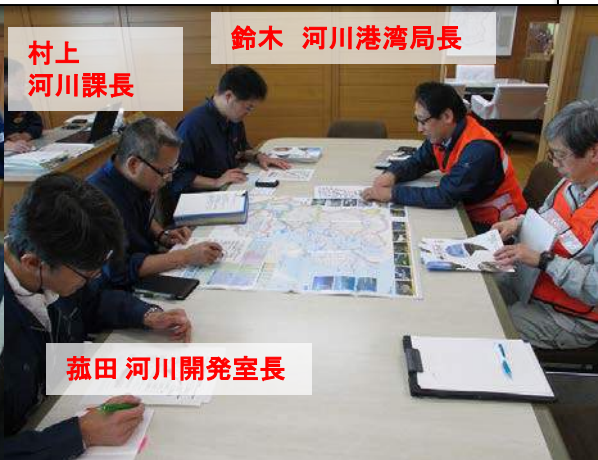
蒲島 熊本県知事



村上
河川課長

鈴木 河川港湾局長

菰田 河川開発室長



藤見 准教授



(4) 11:30-11:45 熊本県庁知事室

(5) 11:50-12:30 熊本県庁土木部

(6) 13:10-14:20 熊本大学まちなか
工房

1. 3.11などの教訓から出来たこと

- 行政の緊急対応本部立ち上げ(国, 県, 自治体)
- 関係者連携(政府対応本部会議の開催と共同参画)
- 救命救出活動, DMAT・DPAT活動
- ボランティア団体との連携



2. 出来なかったこと

- 建物応急診断(23日頃から開始)
- 支援物資の受け入れ・ロジ対応(大量の物資をさばけない, 避難所への配送困難)
- 避難所の運営(混雑, 衛生, 要支援者対応)
- 行政担当者の活動(避難所などの対応に追われる)



3. 要確認

- 旅行者, 外国人旅行者などへの対応
- 地域での共助(救助, 避難所の運営など)
- 情報発信(行政から, 関係者間, メディアから)



4. 今後期待・重要になりそうなこと

- ボランティアの受入と展開
- パートナー支援(自治体毎のきめ細かい支援)
- 廃棄物処理(分別, 廃棄)
- インフラの復旧
- 二次災害(地震活動の拡大, 雨期での土砂災害)
- 職員・担当者へのケア



現地での様子

交通情報(4月24日状況)

- 高速道路・一般道の開通
- 新幹線一部開通
- 渋滞はあったものの道路情報の提供



地震による揺れ(複数)

- 熊本市内
- 墓石の落下・倒壊
- 複雑な方向(複数回の前震, 本震, 余震)



益城町（住宅被害）



益城町（住宅被害）



支援物資

- 支援物資が大量で、さばききれない
 - 物資が第二の災害になっているとの声も
 - 避難所からのニーズの把握が十分でない
 - 民間の専門ボランティア(物流事業者など)が入り始めたが、十分に動けていない
 - 個人からの混在物資を受け取ってしまった(今は、物流事業者が受付で抑制)
- 個人からの物資の仕分け・被災者への届けを、今後ボランティアが担う方向に



ボランティアと避難所支援

- 建物内片付けが始まらず，一般ボランティアのニーズが多くない
- 連休に建物内の片付けが本格的に始まるか？（応急危険度判定の遅れ，余震）
 - 避難所環境整備に，一般ボランティアはさほど数がいない（洪水被害との違い）
 - 専門性の高い避難所支援，支援物資物流のボランティアは必要
 - スキルのあるボランティアが仕組を作り，一般ボランティアがそれに沿って動くべき



整理とまとめ

- 日常対応(社会保証, 福祉・医療)から非日常(災害, 危機管理, 初動体制, 救援・救急)への対応, **コミュニティー力, 行政力**
- 日本では, **各地で経験と対応力**がある
 - 対向支援については経験(姉妹都市, パートナー, 協力包括協定), ニーズと提供が一致し易い
- しかし, 異なる災害が起きると, **適用力**がなく, 対応できなくなる.
- **また, 情報力は向上**しているが課題も, デマや必要でない情報も氾濫している.
- **人・もの・情報・資金などの資源をどのように提供するのか? 受け入れるのか? 支援力・受援力の向上が課題**
- ボランティアの役割は益々重要
- 一般ボランティアに加えて専門ボランティアの派遣が重要
- => 今後, 少子高齢化の中での復興がやはり重要, 如何に地域社会創生するのか?